

1886(明治19)年創業。地域とともに137年。

HCP Human Communication Partners
半田中央印刷株式会社ロゴマーク
愛称「さくらんぼ」
PTC Group〒475-0032 愛知県半田市鷺千町1番地の21
TEL 0569-29-2525㈹ FAX 0569-29-4500

主催・制作：株式会社 新聞社

あかいしんぶん

わが町、わが店、この道一筋。出立いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 岩瀬店/愛西市岩瀬町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

老春の戯言

るしじゅんの
たわでひと

No. 004

戦争と平和

最近、日本でも軍備増強論がまばびすしい。やはりロシアがウクライナ進攻で毎日のようにテレビで見せられる、平和志向の人も心が揺れるのだろう。岸田首相が新たな国家安保戦略など三文書を開議決定、世界は歴史的分岐点にあり、協調と分断、協力と対立が複雑に絡み合う時代に入っているとしている。五年間で防衛力を抜本的に強化する四三兆円の防衛力整備計画を実施する。不足分は増税で賄うという。

テレビに登場する多くのコメンテーターは応援団よろしく日本の軍備強化を声高に発言している。攻撃を受ける前に敵基地をたたくといふ。武器の多くはアメリカからの輸入に頼る。

先の戦争前の様相と同じだ。国民は赤紙令状に怯えながらも男たちを戦場に送り出した。その実態は軍が書類焼却を命令したためほとんど知られていないが、富山県のある村の戸籍係が隠し廃した資料をもとにNHK取材班+小澤眞人氏によつて「赤紙 男たちはこうして戦場に送られた」といってめられ、その一端が伝えられた。

世のコメンテイターや政治家は自分たちの家族に赤紙がきた時、どうするのか。当時は公務員をはじめ募集延期制度によって募集を免れた人や職業も少なくなかった。多くの若い命はイス死と同じだった。もう一度平和を考えよう。

文・写真＝岡田清治

FAX: 0569-34-7971

メール: hiromitsu@akai-shinbunten.net

読者の方々の感想、意見、コメント等を上記のFAXかメールでお寄せください一緒に考えます

おかだ せいじ
岡田 清治
1942年生まれジャーナリスト（編集プロダクション・NET108代表）

著書に『高野山開創千二百年 いっぽんさん行状記』『心の遺言』
『あなたは社員の全能力を引き出せますか！』『リヨンで見た虹』など多数



「言葉は言葉」

知多の哲学散歩道 Vol.38

小栗風葉の思想②

久田健吉(哲学者研究者)

風葉は反省したと思います。どれだけ批判告発しても、社会は変わらず庶民は救われないままに留まるからです。どうしたらいのか。庶民の生活を正しく評価し、庶民を社会の主人公として奮闘する方向に、風葉は舵を切ったと思います。後期の作品群がそれを証明しています。もちろん、庶民の生活をすべてOKと言っているのではありません。落落した生活態度には厳しい目を向け、素晴らしい生活態度には温かみなどを見ているからです。しかし専門からの難んだ目はあります。これが風葉の素晴らしさです。

庶民は幸せになるべきだ。これは風葉の願いであり理想です。前期作品はこれに貫かれていました。風葉はこれまで後期の作品を書くまで、豊かな結婚生活を育む中でこそ人間の幸せはあるといつて世界観を開いています。豊かな結婚生活は幸せな社会をつくる、逆に幸せな社会は豊かな結婚生活の中から生まれて来るのだからです。

後期作品には、「さめたる女・続めたる女・覺醒」、「ストライキ」、「深川女房」、「青春」、「恋がめ」、「うぐう女」、「世間諺」、「無為」が属します。それぞれ検討してみるとことになります。

『さめたる女・続めたる女・覺醒』=これら3作品は、本当に別個の作品として書かれていますが、1作品のように読みますので、そのように読みます。この作品から、前期作品とは明らかに違った傾向が出てきます。今までとは貧困や差別の中でまともな生活ができなく、庶民の連帯によっての怒りの告発でしたが、この作品からは庶民の立場を問題にし、庶民が幸せいされる道は何か、このことを問題にするようにならざります。自立心ももって幸せいなる結果を、幸せになっていく、これでマーティーのように見えます。

この作品は、結婚を知られず結婚させられた女性の覺醒(目覚め)を問題にしています。この愛情も向かない夫婦は夫婦ではなくないかと、それで恋愛論にあがれ、通性の罪の受けようとも、恋路を計画いたします。

『ストライキ』=プロリタリヤ文化と言って過度でない作品です。しかし中心は結婚論です。解雇された夫を守ろうと、夫は身をねじてまで支えます。

争議の指導者は、妹に心寄せる黒潮を知つて、「少々ぐらいの過失は大目に見て、末の始終の面倒を見てやつてくれ」と頼みます。

『深川女房』=大時代に恋に人間関係があつて、それが清潔できないままに魚屋の亭主と結婚した女房が、その恋と出会いで、心が燃えます。しかし魚屋の亭主の身への深い深い思いを知り、この亭主とともに生きていいく決意を固めているところです。

『青春』=大作です。この作品において風葉は、結婚を大切にすることこそ庶民の幸せという結婚観を確立したように思えます。永遠の恋こそ至宝と考える主人公が、それだけは幸せになれば、不幸を離れていた人々を見て、反省し、愛を築いていく結婚の大切さに至るところになっています。

『恋がめ』=この作品は『青春』を補完する物語として書かれているようです。『青春』では結婚論を重視したため、恋愛論を軽視したようにならざります。この作品では、恋に恋する心の大さが書かれています。この心があつたじめで豊かな結婚生活が築ける。この主張です。この主張において、私は風葉の結婚論の完成を見ます。

(次号につづく)



次

号

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

付

録

